

「みんなでつないだ勝利」

光星センバツ開幕試合制す

意地と意地がぶつかった開幕試合は、聖地が沸く激闘となった。兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で18日に熱戦の火ぶたが切られた選抜高校野球大会。八戸学院光星は、常に先手を取られる苦しい展開にも自分たちの力を信じ抜き、延長戦の末に関東第一(東京)を下した。七回に代打で登場し、チームを勢いづける同点打を放った小笠原選手(17)は「みんなでつないだ結果の勝利。観客も盛り上がりすぎて、すごく気持ち良かった」と喜びをかみしめた。(桑田友入)

光星打線は好投手を前1ス洗平比呂投手も快投された。

に、6回を終えて散発3を続けていたが、四球や チームがなかなか波に安打無得点。先発した工 失策が絡んで五回に先制 乗れない中、七回によう

反撃の口火切る一打



7回に代打で同点打を放ち、反撃の口火を切った八戸学院光星の小笠原選手(17)は、18日、阪神甲子園球場

やく迎えた2死満塁のチャンス。仲井宗基監督は代打に小笠原選手を送り込んだ。

昨秋の東北大会まではレギュラーだった背番号4の小笠原選手。冬の間8kg増量し、パワーも付けた。だが、今月9日の関西入りから練習試合で12打席連続無安打と調子を落とし、この日は控えに甘んじた。

当日朝にスタメン落ちを告げられ、「とても悔しかった。それでも、決して気持ちは切らさなかった。「父から『控えになってもサポートすることを忘れるな』とよく言われていた。しっかりとサポートしながら、いつ出ても活躍できるように準備していた」

打席に入り、2球続けてチェンジアップが投げられた。「次もチェンジアップだ」。その読み通り、外角に来た3球目を逆らわずに右前へ運んだ。反撃の口火を切る一打に満足しつつ、「自分の打撃と守備でチームに貢献したい」とレギュラーを見据えた。

一奪還を誓った。現地で観戦した父慶一さん(46)は「センバツの舞台に由宇が立っているのは夢のようだ」と感無量の様子。「今日の一本で気持ちを切り替え、次も頑張つてほしい」と目を細めた。

光星打線は8安打を放ったが、長打はゼロ。単打や四死球、犠打などを重ねて2度追い付き、1点も許されないタイブレークの延長十回裏も耐え抜いた。

そして十一回。表の攻撃でついに3点を勝ち越し、その裏の反撃は1点でしのいだ。「全員で粘つてつないで、チーム一丸となつてつなげた勝利だ。砂子田陽土主将(17)の言葉に、確かな自信がにじんだ。

昨秋の東北大会決勝。ライバルの青森山田に屈辱のノーヒットノーランに抑えられ、ナインは打撃力の底上げに力を入れた。大舞台で見せた粘りの攻撃はその成果。砂子田主将は「最後まで諦めない気持ちでいつも通りやれば、絶対に何とかなる」と思っていた。と充実感に浸りつつ、次戦に向けてさらなるレベルアップを見据えた。